

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

株式会社 ユウホウ 福山工場

(2) 事業所の所在地

広島県福山市駅家町大字万能倉373番地

(3) 業種

フェルト・不織布製造業

(4) 事業所位置図
別紙2のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、令和元（2019）年度を基準年度とし、令和7（2025）年度から令和11（2029）年度までの5年間とする。

3 計画の基本的な方向

1. 基本理念
我々は、人と環境に優しい不織布及びフィルターの生産拠点として社会に貢献し、地球環境の保全に配慮して行動し、次世代の環境に貢献するように温室効果ガスの排出抑制に努めます。

2. 基本方針

- ・省エネルギー活動の推進
- ・廃棄物発生の低減とリサイクル活動の推進
- ・グリーン購入の推進
- ・全従業員への環境教育の徹底

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	令和元（2019）年度	令和6（2024）年度
二酸化炭素	6,708	5,895

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	令和元（2019）年度	令和6（2024）年度
二酸化炭素		

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量（t-CO ₂ ）	
	基準年度	直近年度
	令和元（2019）年度	令和6（2024）年度
メタン		
一酸化二窒素		
その他 温室効果 ガス (HFC PFC SF ₆ NF ₃)		

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量（t-CO₂）、削減率（%）

温室効果ガスの種類	基準年度 令和元（2019）年度	削減目標		目標年度 （令和11（2029）年度）
	排出量 （a）	削減率 （b）	削減量 （c）	排出見込量 （d）
エネルギー起源CO ₂				0
非エネルギー起源CO ₂				0
メタン				0
一酸化二窒素				0
その他 温室効果ガス				0
温室効果ガス 実排出量総計				0
温室効果ガス みなし排出量		-		0
目標設定の考え方				

※ 削減率(b) = (c) / (a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

生産量(t)

単位：排出量(t-CO₂)、原単位量（kg等）、削減率（%）

温室効果ガスの種類	基準年度 令和元（2019）年度			原単位 削減目標	目標年度 （令和11（2029）年度）		
	排出量 （a）	原単位 数値 （b）	原単位 （c）	削減率 （d）	排出 見込量 （e）	原単位 見込数値 （f）	原単位 見込 （g）
エネルギー起源CO ₂	6,708	20,160	0.33	27.3	5,600	23,000	0.24
非エネルギー起源CO ₂							
メタン							
一酸化二窒素							
その他 温室効果ガス							
総排出量	6,708	20,160	0.33	27.3	5,600	23,000	0.24
エネルギー消費原単位 （原油換算kl）	-	-	0.14	20.3	-	-	0.11
目標設定の考え方	エネルギー起源CO ₂ は原単位ベース年5%の削減率						

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置及び目標並びに具体的な取組

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組

	項 目	数値目標	具体的な取組
1	燃料使用量の削減	燃料使用量を原単位で1%削減	・ 空燃比の適正管理による削減 ・ 省エネ型熱源機器への更新 ・ 蒸気配管の保温強化
2	電気使用量の削減	電気使用量を原単位で1%削減	・ 冷暖房温度の適正管理 ・ 休憩時間の消灯の徹底 ・ 用水使用量の削減 ・ 高効率照明機器への更新 ・ 高効率空調設備への更新
3			
4			

※ 「原単位」で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること。

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組（環境価値の活用等）

	種 類	合計量
1		
2		
3		

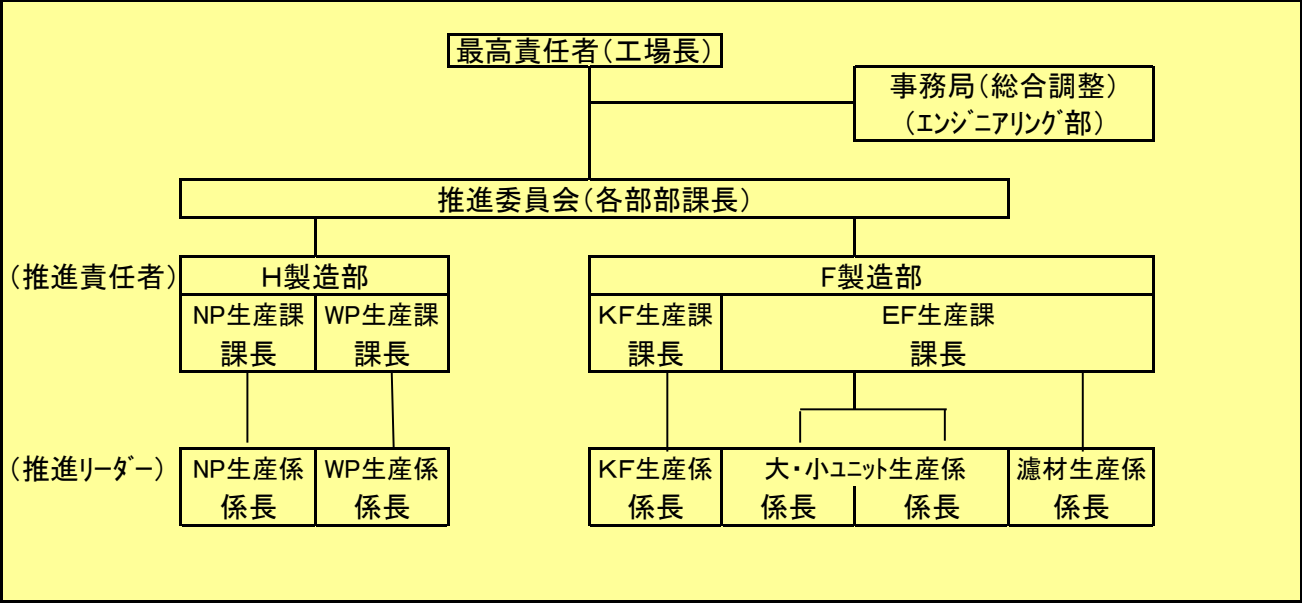
○ その他の取組

	項 目	数値目標	具体的な取組
1			
2			
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組などをされていれば記載してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法

(1) 推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

エンジニアリング部を事務局として、毎年温室効果ガス削減計画の取り組み状況の把握・点検及び問題点の検討を行い、環境負荷低減会議(1回/月)において定期的に評価・見直し等を実施し、継続的な活動の評価、向上を図る。
また、毎年度の取り組み状況、点検・評価内容などについては、計画表とともに公表する。

(3) 計画書等の公表

事業所に備え付けて閲覧する。

